

# 旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 33

2017年7月発行

平成29年度 春季企画展

## 植田家の祈りと願い



旧家で芸能・伝統文化  
～講談とのおこぎり音楽の会～

冷やし旧家、はじめました。

連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (二十七)」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

## 展示のご案内

【通常展】

# 大和川付替えと植田家の収蔵品

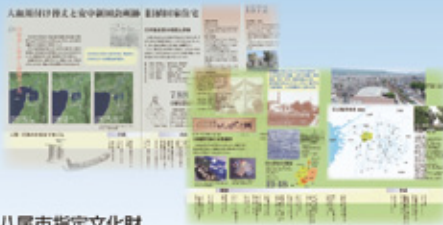
- 資料編 -

2017年

7月14日(金)～8月31日(木)



通常展「大和川付替えと植田家の収蔵品」では、河内平野の変遷、大和川付替えの歴史、そして八尾を含む河内地域と旧植田家の出来事を、年表形式のパネルで分かりやすく展示しています。また植田家の収蔵品の一部を紹介します。



八尾市指定文化財

安中新田会所跡 旧植田家住宅

〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25 TEL. 072-992-5311

◎開館時間:9:00～17:00(入館は16:30まで)

◎入館料:一般200円、高・大学生100円、中学生以下無料

◎休館日:毎週火曜日、8/14(月)

※10月より入館料が値上がりします。

### 資料編 新田開発と植田家関連

今回は「安中新田分間絵図」についての解説とともに、新田開発と植田家に関する古文書や書籍など、収蔵品の一部を公開します。

通常展

## 「大和川付替えと植田家の収蔵品～資料編～」

2017年7月14日(金)～8月31日(木)

大和川付替えと植田家の歴史をたどるパネルをはじめ、古文書資料を数点展示。

※休館日はP15をご覧ください

⇒次回 通常展

## 「大和川付替えと植田家の収蔵品～工芸品編～」

2017年9月2日(土)～10月22日(日)

# Contents

- 4 平成 29 年度 春季企画展  
「植田家の祈りと願い」
- 6 旧大和川を歩く ぶらり玉串川編 Part 3
- 7 講座  
「由義寺と八尾の歴史」
- 8 旧家で芸能・伝統文化  
～講談とのおこぎり音楽の会～
- 10 旧家で記念撮影～こどもの日～
- 11 四会所だより(13)-加賀屋新田会所-
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記 ③③
- 13 冷やし旧家、はじめました。
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (二十七)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



## 表紙写真

### 《お稲荷さんの狐》(旧植田家住宅・神舎)

旧植田家住宅の神舎にまつられる「お稲荷さん(稲荷神)」の御使いである狐の像。多様な信仰を持つ植田家では、お稲荷さんは農業および産業全般の神としての意味合いがあると考えられる。企画展「植田家の祈りと願い」関連。



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。  
<http://kyu-uedakejutaku.jp>



- 平成 29 年度 春季企画展 -

# 植田家の

# 祈りと願い

～仏画と文書にみる  
信仰とくらし～

2017年4月28日(金)～7月10日(月)



三面大黒天と「三面大黒天和讃」



植田家の繁栄を願う文政5年(1822)の家相図



家屋と敷地内にみられる祈りの様々なかたち

平成29年度  
春季企画展  
「植田家の祈りと願い」

平成29年度春季の企画展は、指定管理9年目(3期目)最初の展示として、植田家の人びとの信仰をテーマにした平成21年開館当初の企画展「新田開発と人びと」を再構成した展示を行なった。テーマは「植田家の祈りと願い」。今も昔も変わることなく人びとのくらしの中には大小さまざまな祈りや願いがあるが、それはどのように表現されてきたのか。例えばそれを端的に表すのが仏画である。旧植田家住宅には300点以上の書画類が伝えられ、その中には仏画が10点ほどみられ、ほとんどが日常生活の場(仏事など)で用いられてきた。また仏画以外に古文書類の中にも、人びとの祈りや願いを読み取ることができるものが多く存在し、文政5年(1822)の「家相図」は、会所屋敷当時の植田家が今後の発展と繁栄を願い、当時の有名な家相見(家相を占い図面に表わす職業)に作成してもらった図面である。

植田家といえば、屋敷内には数多くの神棚があり、他にも神舎の稲荷神、建物の鍾馭像や鬼瓦など、至る所に信仰の跡がみられる。神棚に祀られている「三面大黒天」も珍しく、いずれもそのままの状態で見られる。また今回の

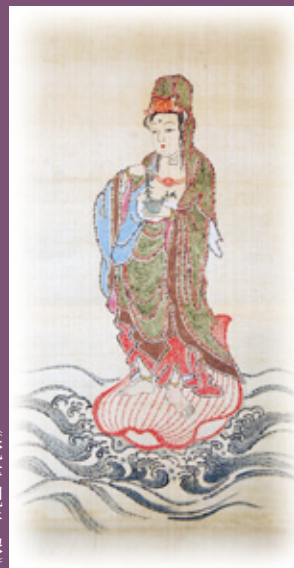
# 法然さん、梵字の観音像!?



厭求《圓光大師画像》



←「南無阿弥陀仏名号」  
(伝 法然、年代不詳)  
↓ 知恩院79代門主の  
"折り紙付き" (大正13)



《梵書観音像》



《阿弥陀三尊来迎図》

仏画が基の大津絵。様々な祈りと願いが伺える。



すべての線が「梵字」で描かれた観音像

企画展で特に注目したのが、やはり仏画で、法然に関するものと「風変わり」な観音像がある。法然(源空、円光大師)は、言わずと知れた浄土宗の開祖とされる高僧で、その図像は全国的にも有名である。植田家所蔵の《圓光大師画像》は、江戸中期の浄土僧・厭求<sup>えんく</sup>によって描かれたもので、非常に気品が高い。また「南無阿弥陀仏」(六字名号)と書かれた別の掛軸には「源空」の署名があるが、その真贋は明らかではない。その代わりにあるのが、大正13年に知恩院79代門主によって書かれた「折り紙付き」である。これはいわゆる鑑定書ではないが、箱書きとともに、これが霊験あらたかなものであり、後世に伝えるべきものであることが示されている。ちなみにこの掛軸については、その前年に当時の植田家によって表装に出されたことが分かる古文書が見つかっている。

観音像については、不明な点もあり、ただ梵字(古代インドの文字)で描かれたユニークな仏画として楽しむことができる。展示では、他にも安福寺ゆかりの仏画をはじめ、正月に飾られる「鎮宅霊符」の三幅対の掛軸、毎月21日に祀られた二幅の仏画のほか、仏画をルーツとする「大津絵」の展示も行なった。

(旧植田家住宅学芸員 安藤亮)



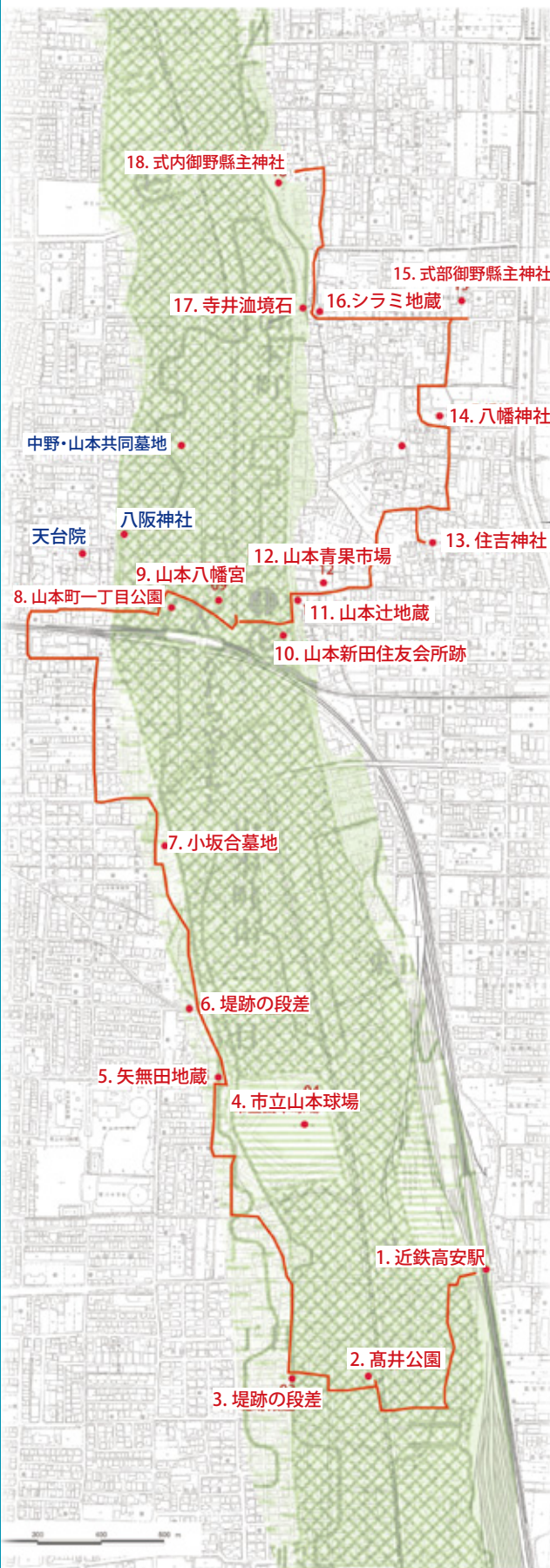
# 旧大和川を歩く ぶらり玉串川編 Part 3 ～高安・山本周辺～

旧大和川(長瀬川・玉串川)を歩くシリーズも9年目を迎え、八尾市内のコースはほぼ踏破しましたが、まちなみの変化によって毎回違った発見があり、今回も「玉串川編 Part 3」として高安・山本周辺の玉串川沿いを歩きました。『旧植田家だより』16号と21号に掲載の「玉串川編」1と2の中間にあたる今回のコースでは、旧河川の堤跡や旧大和川がいかにかに壮大であるか、また新田開発後のくらしがどのように

変化してきたのか、まちの様子から感じられます。

今回は花見の時期にあたる4月8日(土)に決行したため、混雑を避け、あえて外回りのコースを選びましたが、天候があまり良くなく、ゆったりと歩くことができませんでした。また道中、小雨を避けるために訪れた山本球場では、野球をする子供たちの姿とともに、玉串川周辺の景色も一望でき、八尾の新たな一面にふれることができました。

(まちあるき参加者)



満開の桜と山本八幡宮

※地図は当日配布の資料の一部。訪れなかった場所は青字で表記。

# 由義寺と八尾の歴史

新発見！  
再発見！  
郷土の歴史



講師：樋口めぐみ氏  
(八尾市立歴史民俗資料館 学芸員)



講座

## 「由義寺と八尾の歴史」

昨年9月に続き今年2月の発掘調査によって明らかになった「幻の由義寺」の存在は、八尾市だけでなく日本の歴史における大発見となり、現在もしばしば話題に上っています。まさに由義(弓削)フィーバーの八尾市では今年、市の文化財関連施設を中心に、由義に関連した講座・講演会が目白押しとなっています。

そんな由義関連の講座・講演会のひとつとして旧植田家住宅では、5月13日(土)に八尾市立歴史民俗資料館の樋口めぐみ氏を招き、「由義寺と八尾の歴史」と題した講座を行いました。由義関連の講座・講演会への参加者の関心は高く、この日の講座も事前申込みで定員となり、会場の座敷は超満員となりました。

今回の講座では、この大発見の価値を再認識し、より広い視野で高められ



超満員の会場、関心の高さが伺える

るように、考古がご専門の樋口氏に八尾の歴史をベースに話をさせていただきました。そのはじめとして「由義寺」と「弓削寺」の違いについての説明や、八尾の古代寺院における「廃寺」と「寺跡」の表記の違いについてもふれられました。今回の場合、これまで「続日本紀」の記述によって存在が確認できた「由義寺」は、瓦をはじめ、塔基壇の発見などによってその存在が明確にされ、現地は「寺跡」になったということです。またその根拠となる当時の技術や他の埋蔵品も発見されており、歴史的な裏づけも行なわれているそうです。

講座の後半は、発掘調査の現場について2回にわたる見学会の状況を交えて解説をされ、実際に見学会に参加した方も改めて詳しい状況を知ることができました。まだまだ続く八尾市の由義関連の事業と盛り上がり、今後とも目が離せません。

(学芸員 安藤亮)



発掘現場の状況について解説



NPO法人HICALI 主催

## 旧家で芸能・伝統文化



旭堂小南陵 / 講談師



(c)Yukio Shinohara

Andre/ミュージカル・ソウ奏者

# 講談こうだんとのこぎり音楽おんがくの会



平成28年度  
八尾市文化新人賞  
受賞記念!

旧家で芸能・伝統文化

「講談とのこぎり音楽の会」

旧植田家住宅では、古き良き日本家屋の趣を活かした企画「旧家で楽しむ落語会」をこれまで行なってきました。今年度はさらに広く日本の芸能や伝統文化を伝えるべく、「旧家で芸能・伝統文化」と装いも新たに様々な公演を企画して、いこうと試みています。その初の公演として、昨年八尾市の文化新人賞を受賞した講談師の旭堂小南陵氏きよとら せいのりとミュージカル・ソウソウ(音楽のこぎり)奏者のAndre氏を迎え、6月18日(日)「講談とのこぎり音楽の会」を開催しました。

八尾市出身の両氏は、幼少期の友人同士で、文化新人賞受賞の日になじぶりの再開を果たしました。いつか共演できることを約束し合い、それが今回早くも実現することとなりました。日本の伝統芸能である講談とのこぎり音楽もふだんあまり目にすることがなく、文化財施設での公演となるとさらに貴重な機会となります。こうした文化を八尾から発信できることに大きな喜びを感じます。



## 講演

「講演」って何？という方もたくさんおられると思いますが（落語とどう違うのとか）、そうした疑問は旭堂小南陵氏の講演をぜひ一度ご覧ください。歴史・技術・ユーモアなどあらゆる要素を総合的に含んだ伝統芸能のひとつといえ、その迫力は実際に目の当たりにしなければ伝わらないかもしれません。今回披露された「難波戦記」は八尾にも縁のある演目で、終始客席の心を掴んで離しませんでした。



技術と魂を込めた渾身の伝統芸能を披露!!

## のこぎり音楽

関西ではお馴染みの「しゃべるのこぎり」演芸ではなく、のこぎりをあらゆる曲を奏でる楽器として使う「のこぎり音楽」は、演奏する人の技術はもちろん、心構えが要求されます。なぜなら音楽（楽器）としては新しく、芸能としては固定観念が強すぎるのこぎりは発展途上にあります。外国に起源のあるミュージカル・ソウが新たな文化として、八尾市から発振された、そんなひと時でした。



音に乗せ新しい芸能・文化を発振(発信)!!

## 講演×のこぎり コラボ企画

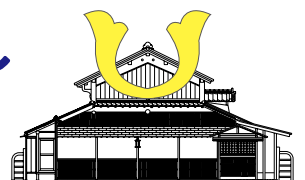
「講演とのこぎり音楽の会」特別企画として、両氏の公演終了後、舞台で夢のコラボが実現しました。八尾のエピソードトークをはじめ、それぞれが今の道に進んだきっかけやプロセスについて語り、お互いの武器（講演とのこぎり）を交換するスペシャルなコーナーも設けました。互いの個性が溶け合い、それぞれの持ち味により磨きがかかった様子でした。また、客席からのリクエストで、急きよ、即興で「怪談」（幽霊と怪奇音）を二人で披露することとなり、その瞬間に創り上げられた舞台に、客席は大いに盛り上がりました。

文化の発信拠点のひとつ「旧家で芸能・伝統文化」の幕開けです。





きゅうか きねん さつえい  
**旧家で記念撮影**  
～こどもの日～



**植田家で記念撮影ができます!!**

(一部場所や展示資料を除く)

4/29(土)～5/21(日)

今年度からスタートした新企画「旧家で記念撮影」。これまで植田家に訪れたことがある人も、植田家で思い出作りに記念撮影をしてもらえるよう、一年の中で特に「旧家が映える」行事に連動して行ないます。

記念すべき第一弾は、5月5日の「こどもの日」にちなんだ記念撮影。いつもの五月飾りに加えて、期間中はダンボール製の甲冑を着て、豪華な座敷の襖絵や五月人形と並んで撮影ができる仕掛けを準備しました。こどもの日の行事のため、参加対象はこどもですが、そのこどもの健やかな成長を願う大人も一緒になって、というよりもむしろ大人の方が楽しんでいる様子でした。また、カメラが無い人も、希望でスタッフが撮影してプリントできるようにしてあり、様々な方に楽しんでもらえます。

日本の伝統と文化を今風に味わう「旧家で記念撮影」は、今後七五三や成人の日、ひなまつりなどにも実施の予定です。たくさんのお思い出を記録して、みんなに自慢してください。





# 四会所だより (13)

将軍家茂が加賀屋新田にやってきた

慶応2年（一八六六）2月14日、加賀屋新田に十四代将軍徳川家茂が来られたことを書いた日記があるんです。

荒武賢一朗編『桜井慶次郎日記』（大阪市史編纂所編、平成21年9月、大阪市史料調査会発行）です。桜井家に養子に入られた桜井慶次郎が加賀屋新田で住み暮らした安政2年（一八五五）～明治3年（一八七〇）までの間の出来事が16冊の日記に認められ、原本は実家の林家で今も大事に保管されています。

元治2年（一八六五）と慶応2年の二年間の日記を大阪市史編纂所が翻刻し、刊行された『桜井慶次郎日記』には、幕末頃の大坂の社会、政治情勢、新田の経営、堺方面での商い、紀州徳川家との関係、十四代将軍家茂が来られた当日の様子、奈良の生家（林家）への気遣いなどが、丹念に綴られています。

ています。

『桜井慶次郎日記』をご覧になり、この時代の様子を感じ取っていただければと思います。

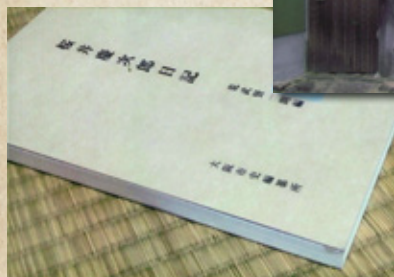
（住之江のまち案内ボランティアの会 山中武男）

※『桜井慶次郎日記』については、

お近くの図書館等でお尋ねください。



※住之江図書館 掲載許可済  
【大史許29-9】



『桜井慶次郎日記』（大阪市史編纂所）



加賀屋



## ●加賀屋緑地（加賀屋新田会所跡）

場 所：住之江区南加賀屋4-8  
交 通：地下鉄「住之江公園」駅下車、徒歩15分  
市バス「南加賀屋四丁目」下車、徒歩5分  
開 園：10時～16時30分  
休園日：月曜日、年末年始  
入場料：無料  
問合せ：06-6683-8151



◎注目！  
新風書房『大阪春秋』第167号  
特集「新田開発と新田会所」  
（2017年7月発行 A4版 120頁）  
（定価1,000円+税）  
書店または旧植田家住宅でも絶賛  
取り扱い中

# なにわの伝統野菜 栽培日記

No.33



トウモロコシとこどもたち

## 【3度目のトウモロコシ】

今年で3度目のトウモロコシ栽培。今年には生食用の品種を育て、収穫して、その場でガブリ！

去年、自分の畑で個人的に植えた品種がとても美味しかったので、それと同じものを植田家でも育てた。

さて、例の「黒いやつら」は（「栽培日記」18号、29号参照）と言うと…、今年もパンパンに膨らんだ実の中に、一匹も頭を突っ込ませることなく、無事全て収穫

することができた。

授粉の時期に雨が続いたものの、予めたつぷり花粉がついた頃、雄花を切り取って冷蔵庫で保管、雌花の頃合いをみて花粉を振りかけ、授粉させた。なので実抜けもなく、パンパンに詰まった立派なものが収穫できた。

お味はと言うと、北海道に「勝ったな感」を感じているのだが（笑）

## さゆばゆ 絵日記



苗ポットから植え替え



こどもの背丈を越して



大きく育ったトウモロコシ



…のヒゲっ！

同じく畑の夏の風物詩、勝間南瓜と黒門越瓜は、また余裕でかくれんぼができるぐらい生い茂っている。こちらも来月初めには収穫が始まる。  
勝間南瓜は今年の冬に予定している、「醸菜 松やま」さんの手による、ここ旧植田家住宅の人気企画「旧家で楽しむ食事会」で美味しくふるまわれること間違いないだろう。



収穫



栽培



木綿の花



花



勝間南瓜



○陽の塔!!



# マンジーくん

安富士 暁



今年も

涼やし旧家、  
きゆううか

はじめました。



耳なじみのフレーズですが、冷たいソバが出てくるわけではありません。旧植田家住宅の夏の納涼企画のタイトルで、今年で3回目の実施となります。

そもそも旧家（古い民家）は夏向けに造られていることが多く、暑い夏を涼しく過ごすには最適です。ところが冷房に慣れてしまつたわたしたち現代人にとっては、クーラーのない旧家はただただ暑い場所です。実際に冷房が無いと暑いですが、昔の建物やくらしの知恵で「涼しい旧家」を提案するというのが

この企画です。

具体的には、建物の風通しを良くしながら見た目にも涼しくて日よけ・虫除けにもなる「簾戸」への入替えや、夏の夜の定番「蚊帳」が体験できる展示を行なっています。また、外にある井戸舎では、たらいに張った冷たい井戸水に足をつける「足水体験」ができ、期間限定で販売する昔ながらの瓶ラムネを飲みながら足水をすることもできます。一昨年は「ひやしあめ」、昨年は「みかん水」の販売も同時に行ないましたが、今回は意外にも夏の飲み物として江戸時代に親しまれた「冷やし甘酒」を有料で提供しています。

いつもの夏をいつもと違う場所と方法で涼しく過ごしてみませんか。納涼企画「冷やし旧家ははじめました。」は9月10日まで実施予定です（気温により期間延長の場合あり）。



簾戸(すだ)に入替え



下からサツとお入りください



冷たい井戸水で「足水体験」

## 落穂拾い

## ― 今東光の董風 ― (二十七)

文・伊東健

今東光にとって八尾市出身の歴史的人物である道鏡は、積極的に書きたい題材だったことが「弓削道鏡」の連載終了後に書かれた次の一文で知ることができます。

僕は今、河内国に住み、河内人と交わり、はじめて道鏡法師のエスプリが解りかけてきた。実相を把握することの出来ない歴史家に誤られて、いつまでも弓削道鏡法師を誤解したままで伝承することの愚を止めようではないか。(『オール讀物』昭和三十五(一九六〇)年

新年特別号所収「魅力の男道鏡より」

直木賞受賞で文壇復帰を果たして二年、道鏡のエスプリ(フランス語で才知・機知・精神等)と取り組んだ小説の幕開けは次のようです。

毎朝のことだが、彼はこの自分の気に入った場所に上ると、はるかに連綿とつらなる生駒

の山波をうっとり眺める。その山裾を大和川が洗っている。この弓削ノ邑は殆ど一族が寄り集っている。彼等は先祖代々の職業である弓を作ったり、矢を作ったりしている。生駒山系の一つの峰である高安山の山麓には曲玉だの管玉だのを造っている玉造りの一族が住んでいる。その他には田畑を耕す百姓等が点をするきりだ。

春は山桜が全山に咲き乱れるし、夏は鬱蒼たる緑の滴りが溢れ出ているし、秋は錦繡で山容を彩る。冬はまだら雪が谷々を埋める。四季折り折りの眺めは彼の美しいものに心惹かれる好奇心を燃え立たせる。

(『弓削道鏡』昭和三十五年二月二十日

文藝春秋新社発行より)

八尾で育ったこの少年が、後年、この地に由義宮を建設するまでに成長を遂げるのです。人並み外れた好奇心と学問への意欲を駆り立て、修行を重ね、奈良の都に向かい、数多くの人々に出逢いますが、東光が描く道鏡に特徴的なのはその博学な知識人ぶりです。

道鏡は御枕辺の黄金の香炉にさまざまな香を焚きしめては、その香の産地などに就いて

御説明するのであった。道鏡ほどの学のある僧侶によって女帝はほぼ世界の地理にも通ぜられた。遠くはギリシアの蘇合香、東アフリカの乳香、インドのカシミールの鬱金香、マレー半島の竜腦と、その一つ一つは異国の匂いを縹渺とただよわすのである。女帝はそれぞれの香に応じて、その香を産出した国々の品を持ち出されて楽しみを加えさせられた。ギリシアの香を焚く時には指に燦然たる寶石をはめ、インドの香を焚く時には象牙柄の扇子を手持たれるという風で、従って法王との御酒盛りにも葡萄酒の美酒もあれば、椰子酒も用いられた。(引用：前掲書)

さまざま誤解を引きずっている道鏡伝承に異議を唱える小説家の愛情は、道鏡と女帝が永遠の別れに至る場面で最高潮に達します。残念ながら紙数が尽きました。続きは次回です。



今東光『弓削道鏡』(昭和35(1960)年、文藝春秋新社)

写真提供：今東光資料館



【2017年8月～10月】

# 旧植田家住宅のご案内

## 今後の展示・企画

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」  
// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

### 展示

2017年

◎7月14日(金)～8月31日(木)

通常展「大和川付替えと

植田家の收藏品～資料編～」

※8/11(金・祝)ギャラリートーク 14:00～(20分程)

◎9月2日(土)～10月22日(日)

通常展「大和川付替えと植田家の

收藏品～工芸品編～」

※9/18(月・祝)ギャラリートーク 14:00～(20分程)

展示、イベント等のお知らせは  
ホームページもご覧ください  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



### 企画

(詳しくはお問い合わせください)

◎8月

4日・11日・17日・25日(金) 土蔵でクラフト 10時～12時

※毎週内容が変わります

20日(日) 夏のお茶会 13時30分～15時30分

※参加無料・当日会場まで(要入館料)

◎9月

3日(日) かまどでご飯炊き体験 10時30分～

16日(土) 講座「今東光『弓削道鏡』」(講師:伊東健氏) 14時00分～

◎10月

14日(土) 旧家でコンサート～昭和のJAZZ～ 18時30分(予定)

☆10月から入館料が変わります



## 休館日カレンダー

■ = 休館日

□ はイベント開催日

8 August

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9 September

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

10 October

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

●開館時間:午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日:火曜日・祝日の翌日・年末年始  
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料:一般200円(団体20人以上で100円)  
高校・大学生100円(団体50円)  
※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者  
および介助者は無料

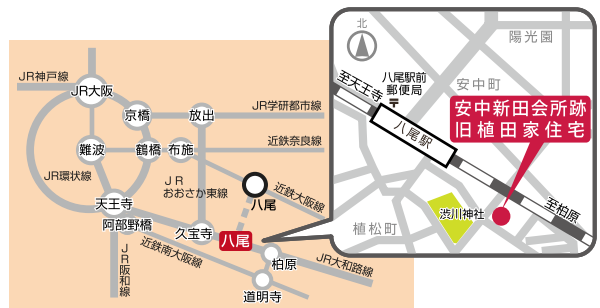
●お問い合わせ・見学のご相談 ※団体予約で案内も行なっています

〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX:072-992-5311

E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇近鉄大阪線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行

JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

# 本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。  
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、  
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう  
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。  
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、  
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、  
地域経済を活性化させたいと思っています。

